

安慶名地区

(沖縄県うるま市) 第1回まち交大賞 アイデア賞

計画期間 平成17年～21年
 面積 16.2ha
 交付対象事業費 540百万円
 市人口 116,000人(地区内人口 3,800人)

ポイント 地元の智恵と力をあわせて、健康長寿の住民活動やビジネスの拠点整備とマネージメント

地区概要 安慶名地区は、戦後米軍により土地・家屋が強制的に接収され、行き場を失った人々が住み着き、無秩序な市街地が形成されるとともに、中心市街地として発展してきた地区

目標 沖縄の中でも健康関連の研究機関や生産加工産業が集中しているうるま市で、市民が集まりやすく、高齢者の多い中心市街地において、健康増進の住民活動・ビジネス拠点整備と健康増進プログラムを展開する。テーマは「心もからだも元気になる」。

指標

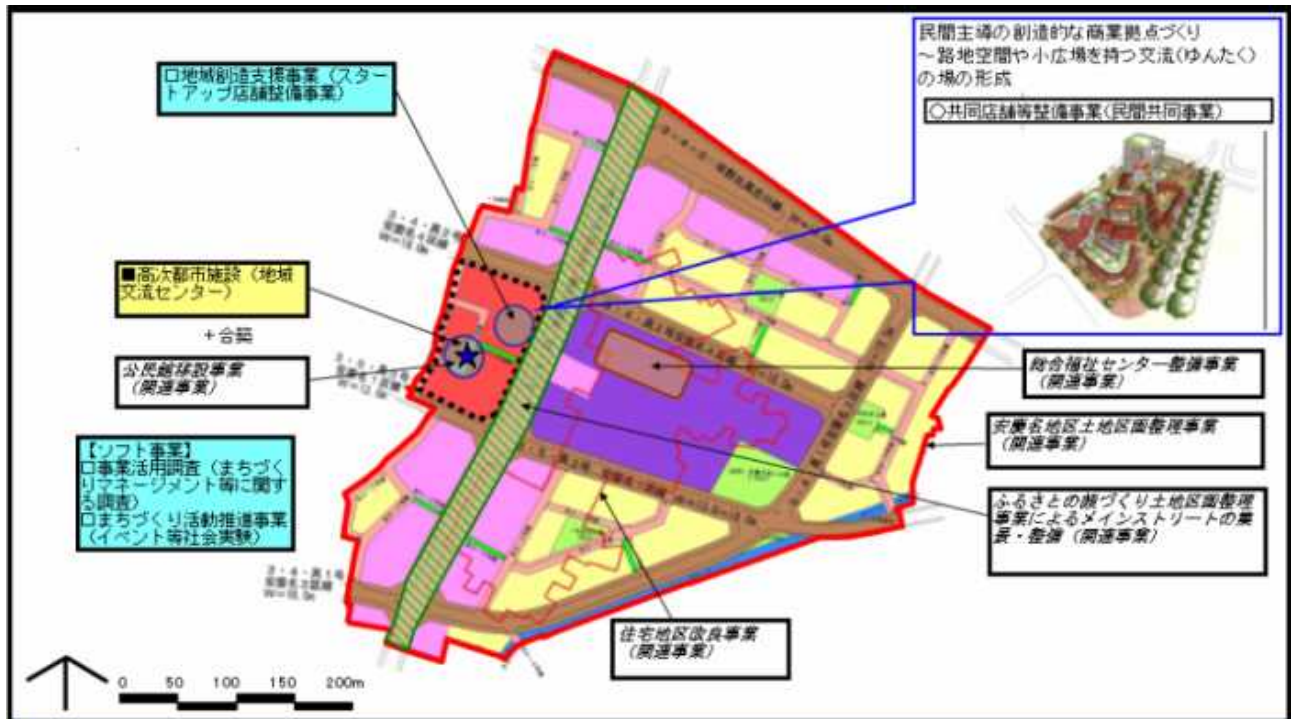
沖縄の中でも健康関連の研究機関や生産加工産業が集中しているうるま市で、市民が集まりやすく、高齢者の多い中心市街地において、健康増進の住民活動・ビジネス拠点整備と健康増進プログラムを展開する。
 テーマは「心もからだも元気になる」

来訪者数	470人/日 (H15)	1200 (H21)
街の魅力度	3.9 (H11)	40 (H21)
交流空間(ゆんたくの場)の存在	11.5 (H11)	30 (H21)

事業内容

基幹事業 (422百万円) 地域交流センター (1カ所、1,750㎡)

提案事業 (118百万円) スタートアップ店舗整備事業、まちづくりマネージメント調査、社会実験 (集客イベント等)



地区の現況と課題

近年、商業機能の停滞・空洞化が進み、かつて、買い物客で賑わっていた「市場」もシャッターが閉まり、日中でも行き交う人通りもほとんどありません。併せて住宅地も、メイン通りから、一歩足を踏み入れますと、道路や公園等の都市基盤が未整備のまま、老朽化した住宅地が密集し、防災上も危険な状況下にあります。



昔の市場

提案事業の特徴

まちづくりマネジメント調査

本格的な拠点整備前から暫定商業イベントとして「スタートアップ・マーケット(仮店舗整備・運営事業)」(提案事業)を実施するとともに、これを研修の場としてマネージャー育成等を行う。

スタートアップ・マーケット

沖縄らしい音楽・芸能のアーティストや地元の健康ビジネスの参加・出店で「いつでもイベント」を指向し、まちをPR。

健康交流拠点施設「地域交流センター」

地元主導の共同店舗開発事業によって開発することを基本とし、これら全体の管理・運営、テナント誘致、イベント等のために「マネジメント会社」を設立する。



現在の市場

いちゃりばタウンスタートアップマーケット設置案



スタートアップ・マーケット

計画策定プロセス

まちづくりワークショップ

地元関係者が参加することからまちづくりが始まるという観点から、みんなで議論し、決めたことを計画にするという原則を徹底し、区画整理の合意形成から、都市再生整備計画、マネジメントに至るまで数々の協議や勉強を継続している。地元の地権者、商業者、住民を中心とする様々なワークショップ・勉強会を頻繁に開催し、歩行者優先のまちづくりや、身の丈にあった拠点形成を考え、計画に反映。

街なか再生大学の実施

平成14年に、全国の大学生等が集まり、まちづくりを提案するを実施し、その提案に触発されて、区画整理やまちづくり活動が急速に進展。

部局間の連携

うるま市が推進している健康長寿クラスターによる地域振興プロジェクト「サンライズ構想」のひとつの拠点をこのまちで具体化するという一方で、健康福祉部局・まちづくり部局・市街地整備部局が一枚岩で連携している。



商業拠点イメージ



まちづくりワークショップ

うるま市長知念恒男氏のコメント

本市は沖縄県内でも健康関連の研究機関や生産加工産業が集中しており、地元の智恵と力をあわせ健康増進の住民活動・ビジネス拠点整備と健康増進プログラムを展開する。

商業拠点地区では本格的な拠点整備前から暫定商業イベントとして「スタートアップ・マーケット(仮店舗整備・運営事業)」(提案事業)を実施するとともに、これを研修の場としてマネージャー育成等を行い、地元主導の共同店舗開発事業によって全体の管理・運営、テナント誘致、イベント等のための「マネジメント会社」を設立する。

組織の運営体制、施設に係る健康増進プログラム等を具体的に検討していくことが当面の課題である。